学校番号	1011

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ⅱ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	最新　数学Ⅱ　（数研出版）						
副教材等	３ROUND 数学Ⅱ＋B（数研出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

数学的活動を通して，「なぜそうなるのか？」と関心を持つことを大切にしましょう。
そしてその「なぜ？」を粘り強く解決していきましょう。

学習方法：・授業の時間を大切にしましょう
その日習うことをしっかり体得してください。教員の解説を聞き、鉛筆を動かして問題を解き、自分の考えを発表したり、周りの人の意見を聞いたりしてください。
・復習の時間をとりましょう
できる限りその日のうちに、帰宅してからその日習ったことについて復習しましょう。５分程度で構いません。この積み重ねがあなた自身の学力向上につながります。

2　学習の到達目標

・いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，微分・積分の考えを理解する。
・事象を数学的に考察する能力を身につける
・数学の良さを認識できるようにするとともに，それらを活用しようとしている。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	いろいろな式，図形と方程式，指数・対数関数，微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数の範囲や式の性質に着目し，等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力，座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し，方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり，図形の性質を論理的に考察したりする力，関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力，関数の局所的な変化に着目し，事象を数学的に考察し，問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察する力を養う。	数学の良さを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	第1章　式と証明	第1節 式と計算 1. 3次式の展開と因数分解 2. 二項定理 3. 多項式の割り算 4. 分数式とその計算 5. 恒等式	a: ①３次式の展開・因数分解の公式を利用することができる。 ②二項定理を利用して，展開式やその項の係数を求めることができる。 ③多項式の割り算の計算方法を理解している。 ④分数式の約分，四則計算ができる。 ⑤恒等式と方程式の違いを理解している。 b: ①既習の２次式の展開公式を利用して３次式の展開公式を導出できる。 ②二項定理をパスカルの三角形と結び付けて考えることができる。 ③分数式を分数と同じように約分・通分ができる。 c: ①多項式の割り算の計算方法を理解しようとする態度がある。 ②通分をすることで約分できる形に適切に式変形をしようとする態度がある。 ③恒等式の性質を理解し，具体的な問題に取り組もうとしている。	定期考査 小テスト	定期考査	課題提出 観察

	第2章　複素数と方程式	第1節 複素数と2次方程式 1. 複素数とその計算 2. 2次方程式の解 3. 解と係数の関係	a: ①複素数, 複素数の相等の定義を理解している。 ②複素数の四則演算ができる。 ③共役な複素数を求める事ができる。 ④負の数の平方根を理解し, それを含む式の計算を虚数単位を用いて処理することができる。 b: ①複素数の四則計算の結果は複素数であることを理解している。 ②与えられた２数を解に持つ２次方程式が１つには定まらないことを理解している。 ③２次方程式の解の符号に関する問題を解と係数の関係を利用して解くことができる。 c: ２次方程式が常に解をもつように考えられた複素数に興味・関心を示し，考察しようとしている。	定期考査 小テスト	定期考査	課題提出 観察

2	第3章　図形と方程式	第1節　点と直線 1. 直線上の点 2. 平面上の点 3. 直線の方程式 4. 2直線の関係	a: ①座標平面上において，2点間の距離が求められる。 ②座標平面上において，線分の内分点，外分点の座標が求められる。 ③三角形の重心の座標の公式を理解している。 b: ①与えられた条件を満たす直線の方程式の求め方を理解している。 ②2直線の平行・垂直条件を理解していて，それを利用できる。 ③点と直線の距離の公式を理解していて，それを利用することができる。 c: 2直線の交点を通る直線の方程式に興味関心をもち，具体的な問題に利用しようとしている。	定期考査 小テスト	定期考査	課題提出 観察

	第5章　指数関数と対数関数	第1節 指数関数 1. 指数の拡張 2 指数関数	a: ①指数が整数の場合の累乗の定義を理解し，累乗の計算や，指数法則を利用した計算をすることができる。 ②累乗根の定義を理解し，累乗根の計算ができる。 ③指数が有理数の場合の累乗の定義を理解し，累乗の計算や，指数法則を利用した計算をすることができる。 b: ①指数関数のグラフの概形，特徴を理解している。 ②指数法則が成り立つように，指数の範囲を正の整数から実数にまで拡張していることを理解している。 ③累乗根をグラフによって考察することができる。 ④指数関数のグラフが定点（0，1）を通ることを理解している。 ⑤指数関数の増減によって，大小関係や不等式･方程式を考察することができる。 c: 負の数のｎ乗根に興味を示し，具体的に理解しようとしている。	定期考査 小テスト	定期考査	課題提出 観察
		第2節 対数関数 3. 対数とその性質	a: ①指数と対数とを相互に書き換えることができる。 ②対数の定義を理解し，対数の値を求めることができる。 ③対数の性質に基づいた種々の対数の値の計算ができる。 ④底の変換公式を等式として利用できる。	定期考査 小テスト	定期考査	課題提出 観察

3	第6章 微分法と積分法	第1節 微分係数と導関数 1. 微分係数 2. 導関数とその計算 3. 接線の方程式	a: ①平均変化率, 微分係数の定義を理解し, それらを求めることができる。 ②微分係数の図形的意味を理解している。 ③導関数を利用して微分係数が求められることを理解している。 ④変数がｘ, ｙ以外の関数について, 導関数が求められる。 ⑤接線の方程式の公式を利用して, 接線の方程式を求めることができる。 b: ①平均変化率におけるｘの変化量ｈは負でもよいことを理解している。 ②定義に基づいて導関数を求める方法を理解している。 c: 接線の傾きと微分係数との関連を図形的に考察しようとしている。	定期考査 小テスト	定期考査	課題提出 観察
		第2節 関数の値の変化 4. 関数の増減と極大･極小 5. 関数の増減･グラフの応用	a: ①導関数を利用して関数の増減を増減表を書いて調べることができる。 ②導関数を利用して, 関数の最大値・最小値を求めることができる。 b: ①導関数を利用して, 関数の極値を求めたりグラフを書いたりすることができる。 ②関数の極値が与えられたとき, 関数を決定することができる。 c: 関数の増減や極値を調べ, ３次関数のグラフをできるだけ正しく書こうとしている。	定期考査 小テスト	定期考査	課題提出 観察

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度